

事例  
09

# あの企業はこう使っている! 事例に学ぶIT・IoT導入

● 三有研器株式会社



工業用刃物と砥石の卸販売、刃物を研ぎ直す研磨サービスなどを手掛ける専門商社。中四国最大規模の刃付け研磨機の数を誇り、長年培ってきた高い技術力で、ものづくりを支えています。

技術をつなぎ、ものづくりを支えます。  
**三有研器株式会社**

〒760-0063 香川県高松市多賀町3丁目5-2  
TEL 087-861-4466  
HP <https://sanyukenki.com/>  
工業用刃物ナビ <https://hamono-navi.com/>

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない…」。  
そんな皆さま必見のコラムです。

高松のIT・IoT先進企業（リーディングカンパニー）が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。

第九弾は、三有研器株式会社。代表取締役社長の有岡康介さんにお話を伺いました。

## キーワードは「70%」と「働き方の見直し」

ITツールだけで完璧は目指さない  
働き方も見直す

三有研器では5年ほど前からITツールを活用して、営業からバックオフィスまでさまざまな業務の平準化に取り組んでいます。以前は業務の属人化によって、プラックボックス化している仕事はかなりあったという同社。有岡社長は、担当者しか業務の進め方や進捗状況がわからないという状況に、危機感を感じていたそうです。「自社の業務に合わせた100%のツールを導入するには、膨大なコストと時間がかかり、フットワークも重くなります。私が入社時に常に目指しているのは70%。完璧なITツールを実現しようとせず、割り切つて大事なポイントだけ押さえるようにすれば、早く、そして安価に、柔軟にITを導入することが可能です。今は無料で使えるツールもたくさんあるので、便利なツールを積極的に取り入れてシステム化し、合わなければその都度働き方も見直しています。

そのため当社では、導入するツールはまず社長の私がある程度使つてから、本格的な運用を開始します。その後は担当者が関係者からの要望を集約し改善しています。また評価にツールを活用した数値目標を設定するなど、使用を促す状況を作り、社内に浸透させる工夫も行なっています」と有岡社長。

有岡社長に聞く

### 導入のきっかけ・流れ



担当者の急なけがや病気による長期休暇の際に業務が滞ったり、退職時の不十分な引き継ぎなどがあると、企業の信用や利益の損失を招きかねません。そこで社内全体の業務フローを見直し、ITツールを活用して脱属人化を図っています。また単にツールを導入しても、社員が使ってくれなければ意味がないので、効率化や便利さを感じてもらえるようなツール選びやシステム開発を心がけています。

